

「腹帯観音」と丸子船

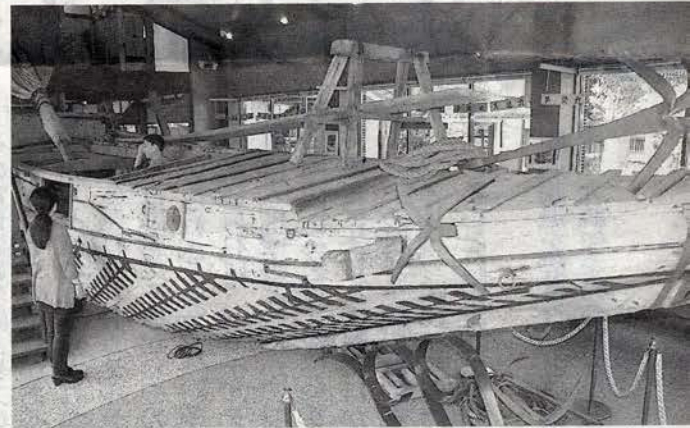
琵琶
がP
い大
から
「丸

大浦 (長)

表の小川俊之さん(50)らが当番を決め、週末に観音像の説明や腹帯の受け渡しなどに当たっている。ただ、会員は40代のサラリーマンや自営業者が中心で、平日の対応が難しい。

そんな時、出番となるのが会の前代表の大田久左工門さん(68)だ。近くの自宅で和菓子の製造販売などをしており、観音堂前に連絡先を表示。参拝客から電話が入れば駆け付け、堂の鍵を開ける。手が離せない時は妻弘子さん(64)も手伝う。「観音様は地元の宝。先輩と同様、住民たちでお守りしている姿を見てもらえたら」と話す。

「腹帯やコルセットを1週間、10日預かって観音像の腹に巻いて安産祈願した後、妊婦に使ってもらっています」。訪れた日は、大田さんが参拝客をガイドしていた。参拝した一人で兵



北淡海・丸子船の館に展示されている丸子船。長浜市西浅井町大浦



腹帯観音と、大田さん(奥)の説明を聞く人たち。長浜市西浅井町大浦

恋実らせ新しい

運んだ。桑原さんら地元自治会は、港の一面に、帆を上げて進む丸子船をイメージした石のモニュメント(長さ約2.5m、幅約1.5m、高さ約1.8m)を設置した。桑原さんは「丸子船は、割り木の運搬で西浅井地域を潤わせた、と若い人たちに伝えたくて作った」と話す。



丸子船は奥琵琶湖パークウェイのつづら尾崎展望台にもあった。館から南へ約10m。港のものと同じぐらいの大きさの大理石のモニュメントだ。ただ、帆がハートの形をしている。

昨年7月、展望台一帯がNPO法人地域活性化支援センター(静岡市)からプロポーザルにふさわしいなどとするスポット「恋人の聖地」に選定され、同11月、奥びわ湖観光協会がつくった。協会西浅井支部長でもある大田さんは「この地で恋を実らせて、観音様に見守られ新しい命が宿ればうれし」と願う。(上野満男)



帆船だったころの丸子船をイメージしたモニュメント。長浜市西浅井町大浦